

## 〔随 想〕

# 打ち水

## 夏 火 鉢

蒸暑い夏が今年も規則正しく訪れて来た。水銀柱がどんどん昇る午後ともなれば、とてもやり切れない気持ちになる。

浜焼きの鯛みたいに日中むされて、塩のふいた身体を、これも又暑くなっている畳と云うあまりに非衛生的な床の上に横たえて、夜半までのた打ち廻るに到っては、まさに難行苦行である。疲労がかさなり、能率の低下は勿論である。

最近が開襟シャツが執務中許されるようになったが、汗くさいシャツや、夜会服の御婦人の上半身みtainな姿はどうにも戴けないが、英国紳士のまねをして、ネクタイを締め、色ものの上衣を着てこと更に通風を悪くしている姿の来客に接すると、御気の毒でもあり、こちらもうんざりする。これが訪問のエチケットだとすると、こんなエチケットは糞くらえだ。

更にひどいのは夏の旅行である。バスの旅でも、乗用車のドライブでも、とてもひどい砂ぼこりに悩まされる。汽車の煤煙にも往生する。先般のどさくさ国会で、7月1日から国鉄の三等が二等に昇格したそうだが、トンネルの中でもうもう煙が入る箱が二等車とは、何等の魅力もない。併し運賃が上がらないから大きい顔をして発言は出来ないだろうが、

汽車が遠距離の唯一の乗物である日本では、等級よりも、内容を近代化する事が第一であるべきで、一等や二等にこだわっているようでは先きが思いやられる。私は寧ろ等級差はなくして1本にすべき事を提唱する。

舗装された道路は未だ部分的にしか御目にかからないが、交通量の多い今日では、これだって狭い感じだ。

こう云った、どうにもやり切れない夏の乗物が、益々暑さを加えるように思えてならない。日本内地のように湿気の多い所での夏は簡略化された清潔な服装と適度の休養日が与えられて然るべきである。暑くるしい話も、論議も一切御断りだ。

「暑いすなあ」、「全くやり切れませんなあ」を連発させるような環境条件の撤廃を政府に要請するデモの展開なら、絶対に国民の支持をうけますよ。

併し庭の打ち水がせめてもの涼しさを味う、ささやかな希望で、今年の夏を過ごすであろう国情では、なさけない限りですね。